



食包協会報第 177号 (2023年1月号) ご案内

平素は「食包協会報」をご愛読いただきまして誠にありがとうございます。この度177号(2023年1月号)を公開いたしました。今号では4編の記事を掲載しております。

1つ目の記事では、弊協会の石谷孝佑理事長に「2023年の年頭にあってのご挨拶」をご執筆いただきました。弊協会は昨年5月に『食品包装学校』を無事開校し、また『ネクストパッケージ』や『食品包装学校』などの新規事業にも力を注いでおります。これらの事業が成果をあげていることにつきまして、ご協力いただいた講師の先生方のご尽力と会員皆様のご助力の賜物と、弊協会理事長のおことばをいただいておりますが、重ねて皆様に心より感謝申し上げます。

2つ目の記事では、一般社団法人日本パン技術研究所専務理事の宮崎健氏に「パン産業の成長・発展に貢献する」と題してご執筆いただきました。同研究所では、製パン技術の職業訓練、パン類加工技術の研究開発、パン類の品質・栄養等の調査分析、食品製造・流通施設の安全・衛生管理指導・監査の事業を行い、製パン業界並びに関連業界の発展に貢献していることをご紹介いただいております。

3つ目の記事では、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構の荒木悦子氏に「SIAL Paris 2022 (フランス国際食品見本市) の参加報告」と題してご執筆いただきました。同機構は、海外で開催された食品見本市の会場で「食のセミナー」を開催し、米粉、酒米・日本酒、日本茶、発酵食品(味噌や醤油)などの日本の農産加工品を紹介されています。

4つ目の記事では、弊協会の第5回 Next Package 実行副委員長でもある凸版印刷株式会社の大日方野枝氏に「第5回 Next Package2022～人と技術の交流が未来を包む～を振り返って」と題して執筆いただきました。Next Package 展は3年ぶりの対面形式での実施となりましたが、改めて対面の意義が感じられる展示会となりました。

弊協会 Web コミュニケーション委員会では、公平・中立の原則のもと、どのような企画をすれば皆様に関心を持っていただけるかといったことを常に問いながら、これからも魅力ある記事の発信に努めていきたいと考えております。引き続きよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、ご多用のところ執筆を快くお引き受けて下さいました石谷様、宮崎様、荒木様、大日方様に心から厚く御礼申し上げます。

2023年1月20日
広報委員 吉田恵理